

自然との調和 関西の総力結集の 切り口に

府県の枠を越え、関西全体で戦略的に動かなければいけない、ということはかなり以前から機会あるごとに叫ばれてきました。いわく、関西はアジアにおける産業や文化の交流拠点となることが有益であって、そのためには空港や港湾、道路などの経済インフラを広域的な見地から整備する必要がある。いわく、歴史・文化の集積や自然美など多様な側面をもつ関西の魅力を世界にアピールし、集客・観光を強力に推進するためには地域全体での戦略的な情報発信が必要である。いずれももっともな主張であり、おそらくこれに異議を唱える人はあまりいないと思います。にもかかわらず、具体的な動きをなかなか打ち出せずにいることを、いつも残念に思っています。関西では今、広域連合制度の活用など、府県を越えた広域自治組織についての議論が進みつつありますが、とにかく具体的な動きにつなげていくことが大切でしょう。

では、何を切り口に広域連携による取り組みを進めるかという点ですが、これについては“自然との調和による居住環境の質の向上”というテーマが、一つの案として考えられるのではないかと思います。“環境”というと、いかにも迂遠なテーマにみえますが、これほど世界の潮流や関西の特性にマッチし、かつ地域住民の賛同を得やすいテーマはないと思うからです。

ご承知のとおり、地球規模で進行する環境破壊に対する危機感が高まるばかりであり、都市文明と自然の調和をどうはかるかは世界の重大な関心事になっています。ひるがえってみれば、関西は人口百万人を超える大都市を3つも擁する一方で、海や山からも近く、少し足をのばせば日本が誇る森林資源の宝庫、紀伊の山々もあります。つまり関西は、都市生活を送りながら自然とのふれあいを通じたさまざまな生活上のオプションを楽しむことができる、世界でもまれな場所なので



村上 仁志氏

Hitoshi Murakami

住友信託銀行会長

す。その素晴らしい住環境をさらに自然との融和という点から質を高めていけば、世界に新しい生活モデルを提案できるのではないかと思います。

例えば、地域をあげて緑化や自然保護に取り組むことも一つですし、市民生活そのものをエネルギー利用や廃棄物処理などの面で環境に負荷がかからないものに変える運動をおこすことも考えられます。また、人口の高齢化とともに増える中高年の人々を人手不足に悩む森林の保全事業のボランティアに送り込む活動を支援するようなこともいいでしょう。知恵を絞ればやることはたくさんあるはずであり、自然と調和しながら心豊かに生きる住環境をつくらうという関西の取り組みは、世界の注目を集めるに違いありません。実際、外資系企業は立地場所を選択する際に住環境の快適さを重視しますから、企業誘致を進める上でも大きな強みになると考えられます。

“環境”はまた、経済活性化の糸口にもなりえます。今後アジアの国々が経済成長に伴い深刻な環境問題に直面するのは明らかで、そうなれば日本の進んだ環境技術への関心は高まっていくでしょう。それを視野に入れ、「環境技術」という観点から政策的に産業集積を進めていけば、関西は“環境”を切り口としたアジアにおける産業の交流拠点となり得ると思います。

このように“環境”は、住民生活、世界へのアピール力、さらには経済的側面からも、関西が総力をあげて取り組むに値するテーマではないかと思います。 談